

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2012年 12月号 クリスマス号

発行所 神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者 司祭 芳我 秀一

印刷所 文明堂印刷所

涙の種を蒔き続けましょう

司祭 アンデレ 中村 豊

救い主イエスの登場を告知した洗礼者ヨハネの父は祭司ザカリヤ、母はエリサベトで、「ふたりとも神の前で正しい人(ルカ1章6節)」でした。

正しい人の祈り

しかし、この夫婦は、寂しさを隠しきれません。子どもが授けられないまま、いたずらに年月が過ぎてしまったからです。

祭司ザカリヤが神殿奉仕のためにエルサレム神殿にのぼったとき、くじ引きによって、自分が神殿内で香をたく榮譽が与えられ、唯一人、聖所に入ったときのことでした。

天使ガブリエルが香壇の右に立ち、「あなたの願いは聞



「洗礼者ヨハネの誕生」 ティントレット(1518~94/95) 1540年頃の作品。エルミタージュ美術館蔵。

右端の男性が、洗礼者ヨハネの誕生に際して、聖霊に満たされて預言するザカリヤ(ルカ1:68~79)。右奥の寝台に寝ている女性がエリサベト。中央左で、生まれたばかりの洗礼者ヨハネを抱いている光輪のある女性が、イエスを身ごもっているマリアとされている。

き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。」

し、妻も年をとっています。と天使の言葉に疑義を抱いたのです。

と言います。

恐れおののきつつもザカリヤは、「何によって、わたしはそれを知ることができようか。わたしは老人です

現実だけに目を奪われてしまっているザカリヤの信仰のありように対して、天使ガブリエルは、「なぜ、私の言葉を疑うのか。ヨハネが生まれるまで、あなたは口がきけなくなる」と怒りを露わにしました。

沈黙のとき

聖所から出てきたザカリヤは、外で待っていた人たちに語ろうとしましたが、一言も言葉を発することができませんでした。口がきけない間、神の恵みと救いがヨハネを通してどのようなかたちで具体化されるのかを思い巡らす機会が、ザカリヤに与えられました。

子どもが生まれ、その名をヨハネと命名したとき、ザカリヤの口はほどけ、神を賛美し、「高い所からあけぼのの光りが我らを訪れ、暗闇と死の影に座している者たちを照らす(ルカ1章78節)」と詠いました。

せつせと種を蒔く

ザカリヤは、「望んでいる

事柄を確信する人、約束されたものを手に入れることができなない人(ヘブライ11章)」の仲間に加えられました。ヨハネ誕生から約30年の後、イエスが人びとの前に登場することによって、ザカリヤの夢が実現しました。しかしその時、ザカリヤはこの世には存在していません。

正しい人ザカリヤと今の時代の私たちには共通点が多くあると思います。高齢化社会を迎えて、教会も社会もなかなか先が見えず、現実だけに目を奪われて、「あれもだめ、これもだめ」と悲観的に何か物事を考えられなくなり、「何によってそれを知ることができるのですか」という疑問ばかりを發します。このような時こそ、10年、20年後に生きる人たちがいることができる「あけぼのの光(アナトレー)」が現れることを夢見ている、若い人たちが育つようにできる限りの種を惜しまずに蒔き続ける決意が求められています。(神戸教区主教)





コベントリーの(旧)大聖堂

堂してゆく聖歌隊の子ども達のかわいい事。お揃いの真っ赤なガウンに白いブラウス・・天使の行進のようであった。翌々日は、コベントリー教区のコ

ベントリー大聖堂へ。神のおとずれのランベス特集号によると、広島復活教会の信徒さんと当時の中村司祭が訪れて以来、24年にわたる親交が続いているとの事。主教様の友人・知人が多数。コベントリー教区主教様らが暖かく迎えて下さる。目を見張ったのは巨大な布のタペストリー「栄光のキリスト」。高い天井から床までの大きさは何とテニスコート一面分という。製作に三年を費やしたとの事である。両手を肩のあたりまで挙げて、訪れた人々を祝福されるキリストの柔和な顔がとても印象的である。



カンタベリー大聖堂の前にて

カンタベリー大聖堂に立つていふと、日本語によるカンタベリイ大聖堂巡礼記念聖餐式。司式・説教共にもろろん中村主教練。きれいに印刷された式文の冊子が用意されており感謝である。遠く日本を離れて、ここカンタベリイ大聖堂で聖餐式に与るといふ事は、何と大きな恵みの賜物であろうか。感無量。一歩一歩力を込めて祭壇に。パンとぶどう酒に与ると思わず熱いものが込みあげてくる。生涯忘れることの出来ない恵みの聖餐式であった。感謝。
(神戸聖ヨハネ教会信徒)
※神戸聖ヨハネ教会報「鷲の翼」に8月号掲載記事を転載

聖書と教会の歴史を訪ねて 英国巡礼の旅

リベカ 蔭山 陽子

届いた一枚のファックス

三月初めのある日、中村主教練から一枚のファックスが届きました。「最後の一人に滑り込みました。」おっ！バイブルハウス主催の英国巡礼の旅・10日間の事である。あきらめていたのに何とラッキーな事！団長は中村主教練。こうして、私はあこがれのイギリスへ。

数々の大聖堂を訪ねて

5月10日、エジンバラ城見学のあと、1879年建築の荘厳な大聖堂・スコットランド聖公会のエジンバラ聖マリア教会へ。夕方五時半からのミサに参加。ここで、最初に一人の姉妹の為に祈りを捧げる。旅の出発前日



ランベス宮殿

に届いた計報。母教会の徳山聖マリア教会で大変お世話になった姉妹が急逝。いつも明るい笑顔、楽しいお話ぶりが目の前に浮かんでくる。彼女の天上での魂の平安をお祈りする。

ふと我に返ると、天使の歌声？何とも言えぬ美しい聖歌隊の透きとおるような歌声が響いてくる。あいにく私の席からは姿が見えないが、高く広い聖堂にこだまし、思わずうっとりする程。色白の頬をほんのりと染めて退

く、楽しいお話ぶりが目の前に浮かんでくる。彼女の天上での魂の平安をお祈りする。ふと我に返ると、天使の歌声？何とも言えぬ美しい聖歌隊の透きとおるような歌声が響いてくる。あいにく私の席からは姿が見えないが、高く広い聖堂にこだまし、思わずうっとりする程。色白の頬をほんのりと染めて退

来るだろうか？言葉が見つからない。大聖堂に一步足を踏み入れる。長い長い歴史の中で絶える事なく祈り続けられ、訪れた人々の捧げた祈りが涙となって、深く濃く床や壁に染み込んでいるようであった。

吸い込まれるような錯覚を覚える程の高い天井、一つ一つの彫刻が気の遠くなるような時空を越えて刻まれた精緻な造り、多数のステンドグラスが織りなす神秘的空間、その輝きは光が光を呼び複雑な色合いを醸し出している。そしてあたりに漂う心地よいお香の香り。『あー、イギリスに来ていて。今、私はカンタベリー大聖堂に立っている』と実感する至福の時であった。

涙の聖餐式

いよいよクリプト(地下聖堂)で、日本語によるカンタベリイ大聖堂巡礼記念聖餐式。司式・説教共にもろろん中村主教練。きれいに印刷された式文の冊子が用意されており感謝である。遠く日本を離れて、ここカンタベリイ大聖堂で聖餐式に与るといふ事は、何と大きな恵みの賜物であろうか。感無量。一歩一歩力を込めて祭壇に。パンとぶどう酒に与ると思わず熱いものが込みあげてくる。生涯忘れることの出来ない恵みの聖餐式であった。感謝。

東日本大震災関連情報

神戸松蔭女子学院

「被災地に身を置く こと」から始めよう」

神戸松蔭女子学院大学では、8月27日(月)～30日(木)、学校主催の「被災地に身を置くこと」から始めよう」というプログラムが実施され、公募に応じて集まった学生15名とスタッフ5名が現地を訪問しました。

その目的は、被災地の現状を知り、被災地、被災者の方々のことを覚え続けるために、まず被災地に身を置くというものです。

初日は、石巻市方面を訪問し、大川小学校や女川町で、犠牲になつた方々の為に祈りを捧げま



大川小学校慰霊碑の前で犠牲になつた児童、先生のために追悼の祈りを献げた。

2日目は、日本聖公会の被災者支援組織「いっしょに歩こう!プロジェクト」から紹介された、名取市の箱塚仮設住宅を訪問しました。

2日目は、集会室でのお茶会に参加して、入居者の方々と交流の時間をもち、その後、入居者のお宅を訪問し、掃除等しながら、被災のことや仮設住宅での生活について話を聞きました。

3日目は、敷地内の除草作業を行い、自治会長の方から、被災と復興の現状についてのお話を聞きました。



箱塚仮設住宅の集会室でのお茶会で、歌を披露する聖歌隊のメンバー。

災と復興の現状についてのお話を聞きました。

その後、閉上地区を案内して頂き、全てが流された被災状況を見て、学生たちは言葉を失っていました。

参加学生の感想の多くは、「まずはこの現状を身近な人たちからでも伝えたい」、「小さくても復興の一助になりたい」と言った言葉でした。10月11日(木)、学内にて、参加学生全員による報告会が開催されましたが、今回の体験と学びについて、報告と共に、そうした思いが語られていました。

(神戸松蔭女子学院大学
非常勤チャプレン
司祭 ミカエル 小南 晃)

小名浜聖アモテ幼稚園 秋の遠足に同行して

司祭 シモン 原田 佳城

11月10日(土)～16日(金)、小名浜聖アモテ教会に常駐している木村幸男司祭が、大阪に一時帰省の間の交代要員としてボランティアセンターに行きました。

今回は、主日礼拝の奉仕、ほっこりカフェ、そして13日(火)に行われた聖アモテ幼稚園遠足に同行等のお手伝いをさせて頂きました。

同幼稚園の遠足は、一昨年来

で近くの海岸に行っていました。今年も、遠方の茨城県日立市にあるカミネ動物園に行きました。津波と放射線が幼稚園の遠足にも影響しているのです。

今後とも被災地の方々、子供たちの為に祈り下さい。



聖アモテ幼稚園園舎にボランティアが描いた「ノアの箱船」壁画

1月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2013年1月10日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 瀬山 会治

* 1月の記念逝去教役者 *

1日	司祭	ウィリアム	・R・グレイ	イ・亨
3日	司祭	パウル	・井田	熊五郎
5日	司祭	ステファン	・横田	金五郎
6日	司祭	スチーブ	・福島	国五郎
10日	司祭	ガブリエル	・武田	林普一
11日	司祭	ジョージ	・ウヰン	・信岡
12日	司祭	ステラ	・ダブ	・ブル
15日	司祭	ヨハネ	・寺中	・八野
15日	司祭	ヨハネ	・中八	・野原
17日	司祭	ヨハネ	・大野	・松田
18日	司祭	エセル	・宇小	・大秋
19日	司祭	ペテロ	・野原	・松田
22日	司祭	ガブリエル	・今	
25日	司祭	ガブリエル		
27日	司祭	ガブリエル		
27日	司祭	ガブリエル		

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

10月10日(水)
ヨハネ 原田 金蔵
福山諸聖徒教会

10月21日(日)
マタイ 長尾 哲也
富岡キリスト教会

祝 堅 信

10月21日(日)
マタイ 長尾 哲也
富岡キリスト教会

ご 逝 去

10月13日(土)
マリア 岡田 郁子(88歳)
神戸昇天教会

10月30日(火)
佳知 晃子(99歳)
神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

10月3日(水)
ベタニヤのマリア
八幡 多美子
姫路顕栄教会に入籍

Q クリスマスツリーに電飾を飾る習慣はどうして始まりましたか？

A クリスマスツリーに電飾？を最初に飾ったのは、宗教改革者のマルティン・ルターだと言われています。

クリスマスイブの夜、ウィッテンブルクの家に帰る途中のルターは、森の中で高くそびえるモミの木の上に数え切れないほど多くの星が輝いているのを見て感動しました。彼は、その清らかな様子を是非家族にも見せてやりたいと考え、家に帰ってから、モミの枝に沢山のろうそくを付けて家族に見せました。それ以後、クリスマスツリーをオーナメントで飾ったり、電飾を付ける習慣が出来たようです。

なお、最初は火の点いたろうそくを使ったため、よく木に火が燃え広がり、火事になったようです。金持ちの家では、新参者の召使いが、バケツや濡れたモップを持って火の番を命じられました。火事の心配がなくなったのは、エジソンが電球を発明されてからのことです。

少し質問から外れますが、ドイツや北欧では、樹木信仰との結びつきの中で、クリスマスツリーを用意し飾る習慣ができました。ことにもみの木は、十字架のように枝が広がっていますので「聖なる緑の木」とされました。

またデンマークでは、バイキングの時代に次のような伝説がありました。ある村に1本の不思議な力を持つ木がありました。村の人たちは、木の神様ツントレとよんで、願い事があるとリンゴなどをその木につるして祈りを献げてい

ました。やがてその木は、神への献げ物でいっぱいになり、これが現在、クリスマスツリーに贈り物(オーナメント)をつけるいわれになったというものです。

なお、イギリスにクリスマスツリーの風習を紹介したのは、ヴィクトリア女王の夫で、ドイツ出身のアルバート公だそうです。彼は結婚後初めてのクリスマスを二人で祝うため、ウィンザー城にクリスマスツリーを持ち込み、それが後にイギリス全土に広まったようです。

キリスト教入門 Q&A

執事 イサク 坪井 智

松蔭中学校・高等学校チャプレン・
神戸松蔭女子学院大学非常勤チャプレン



Q 電飾を飾る意味は何ですか？

A 季節柄、暗く寒い夜が長くなる冬場、明かりや炎というものに心

引かれるのは、人間の自然な思いなのでしょう。

北欧では、キリスト教が伝えられる前から、冬至の頃に「ユール」という祭りを行っていました。

これは北欧神話の神々を讃えつつ、豊穡の神に一年の豊作を感謝し、次年度の豊作を祈る、まさに各地で行われていた冬至祭の一種です。農業と太陽は密接に関係していましたから、冬弱くなった太陽が力を得るように、また、長く暗く寒い冬の夜を乗り切るために、太陽の光の代わりに沢山の明かりを灯し、またユールログと呼ばれる大きな薪をくべ、その火を絶やさないようにして、太陽の熱の代わりとしていました。ちなみにこの薪をモチーフに作られたお菓子が、ブッシュ・ド・ノエルです。この闇を照らす光は、「ユール」がクリスマスに吸収されていく中で、キリストの光と同一視され、また、夜の祭りであるクリスマスに明かりは必要な大切なものとして残されていきました。

イエス様は、その公生涯の中で、当時苦しめられていた者と共に生き活動されていました。それだけに、彼の誕生そのものが、光と希望に満ちたものと考えられるようになりました。この事は、ヨハネによる福音書の冒頭、「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」(ヨハネ1章4～5節)の中に示されています。大々的な、競うような電飾はともかくも、クリスマスの明かりに込められた意味を大切に、多くの人々に伝え、心に希望の明かりを点すことが出来たらと思います。

どうぞ、教会のクリスマスにお越しください。



書籍紹介

いのちの泉

合本「ローマ人への手紙」講解

著者 主教 小池俊男

出版社 聖公会出版

定価 九〇〇円十税

故主教 小池俊男師父が、
聖書研究誌「仰望」創刊号、
1980年4月発行より、
第28号1986年12月発行
まで掲載され続けた「信仰
の命」をもたらしすみ言葉の
凝集

